

## 2022年7月実績概要（メモ）

(2022. 8. 18)

(2022. 8. 22更新)

定修の多い本年のエチレン生産も漸く前年並みとなるも、誘導品の生産は製品毎で増減に隔たりあり。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 483, 700トン

前月比 +12.2% (+52,600トン)

前年同月比 ▲0.0% (▲0トン)

| 生産増減に係る諸要因 | ＜前月比＞    | ＜前年同月比＞ |
|------------|----------|---------|
| 日数増減       | + 3.3 %  | —       |
| 定修要因等      | + 1.1 %  | + 3.9 % |
| 能力増減       | —        | —       |
| 稼働率変動      | + 7.8 %  | ▲ 3.9 % |
| 生産増減率      | + 12.2 % | ▲ 0.0 % |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月84.4% → 当月90.1% ← 前年同月93.3%

定修プラント：前月2社2プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数増に加えて定修規模の減少もあり、LDPE、HDPE、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、トルエン、キシレンなどの14品目がプラス。PSほか3品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因等からLDPE、HDPE、SBR、BRなど6品目でプラスとなる一方、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EO、EG、ベンゼンなど11品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増と定修規模の縮小から、LDPE、HDPE、PPで大幅なプラス。PSは稼働率要因、定修規模差からマイナスとなった。

前年比は、定修規模の縮小や稼働率要因からLDPE、HDPEはプラス。PP、PSは定修規模の増加からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

生活必需品などの物価上昇から、消費者態度としては、弱含みの傾向が続いている。他方、生産活動では、川下産業における計画は概ね増加の動きが出てきているが、部品供給不足が完全に払拭されたとは言えず、下振れ要素を孕む状況が続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、PPは微減、LDPE、HDPE、PSではほぼ前月並みの出荷に落ち着いた。前年比では、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。分野別の出荷状況においても、LDPEはフィルム分野を中心にほぼ全用途で出荷が減少したほか、HDPEは、中空成形分野、フィルム分野を中心に減少が見られている。PPの主力の射出成形分野に加えて、フィルム分野、繊維分野等が減少した。PSは、包装用途が前年の出荷を上回るも、FS分野、雑貨・産業分野の出荷が減少し、全体でマイナスとなった。

ハ) 輸出

中国のロックダウン解除後、工業生産は徐々に正常化への動きが見られるが、最終需要の回復の足取りは重いままとなっている。前月比はLDPE、HDPE、PSでマイナス。PPのみはプラスとなった。

前年比は、4樹脂揃ってマイナスとなり、依然として外需面での弱さが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PSで増加し、PPは微減となった。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PPで上昇、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、PPはほぼ適正、HDPE、PSはやや高めの水準となっている。

|      | 前月対比増減量<br>(単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) |     |
|------|--------------------|------------------|-----|
|      |                    | 6月末              | 7月末 |
| LDPE | +13,900            | 2.9              | 3.2 |
| HDPE | +15,200            | 3.1              | 3.7 |
| P P  | ▲ 3,900            | 3.1              | 3.2 |
| P S  | + 1,800            | 2.3              | 2.3 |